

【対策のポイント】

- 大規模経営による収益性の高い水稻農業モデルの育成のため、農地の集積・集約化や先端技術導入等により100ha超の大規模水稻経営体(メガファーム)育成への取組を実施。
- 担い手への農地の集積・集約と併せ、農地耕作条件改善事業を活用した畦畔除去による区画拡大を行い、作業の効率化を図ることで、大規模経営体の育成に寄与。

【取組地域の概要】

- 位置 いなしきし
茨城県稲敷市

茨城県



いなしき
稲敷地区

- 事業名
農地耕作条件改善事業(H27～R2)
(5地区に分けて約31.5haを区画拡大)
- 主要作物
コメ
- 受益面積 31.5ha
- 主要工事
田の区画拡大:31.5ha

基盤

農地の区画拡大とスマート農業の導入による省力化

- 令和2年度までに約31.5haの区画拡大を行い、1haを超える大区画ほ場が整備され、作業の効率化が図られた。



事業推進エリア状況

- 「スマート農業実証プロジェクト」に参加し、自動運転田植機、ロボットトラクター等の新たな技術の導入による省力化への取組を実施。



自動運転田植機



ロボットトラクターとの協調運転

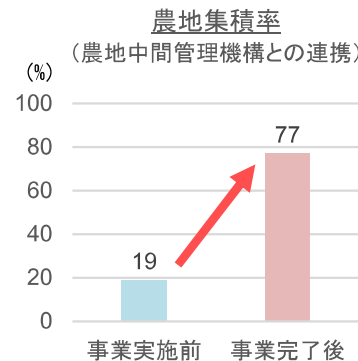
集積・集約

担い手への農地集積に伴う経営規模拡大

- 農地中間管理機構等と連携し、担い手への農地集積・集約を促進。



R1時点



R3時点

凡例

担い手が営農するほ場

メガファームの育成

- メガファーム育成の取組開始から3年間で経営面積が75ha増加し、100haを超える経営規模を達成。

対策の効果

経営面積の増加の推移	実施前(H30)	1年目(R1)	2年目(R2)	3年目(R3)
経営面積	32ha	46ha	68ha	107ha